

令和 元 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099500029		
法人名	医療法人昌和会		
事業所名	グループホーム元気の里		
所在地	福岡県田川郡糸田町2495		
自己評価作成日	令和元年9月16日	評価結果確定日	令和元年10月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和元年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ソーマン流しなど手作りのレクリエーションや利用者さんの誕生日祝いなどに力を入れています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営法人の交代後も、グループホームの設置目的を謳った開所以来の理念の唱和が継続し、全職員で「思いやりを持って笑って声かけをする」支援に努めている。職員の気付きをミーティングで話し合い、尿路感染症を予防したり、嚥下が困難になりつつある入居者の現状に沿ったケアを実践している。運営推進会議や身体拘束防止委員会を同日に開催し、活動や運営状況、食事用のエプロンやセンサー代わりに上履きにつけた鈴も拘束のひとつとみなして経過や評価を報告し、参加者とのやりとりなどの会議録を事務室前に公表している。会議で職員の補充が課題となっていることに、家族から「(職員として)来ましょうか」との申し出もあった。毎月の職員ミーティングで夜勤や早出、遅出の勤務時間の延長や見直しを話し合い、管理者の尽力で運営法人から異動した職員もある。運営法人のデイケアを利用する入居者も多く、今後は医療と介護の連携で、さらなる理念の具現化や地域包括ケアの足掛かりが期待できる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム元気の里**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・始業・終業時に理念を唱和して再確認の場に行っている。 ・理念の中で地域活動や施設行事の支援を実施している	運営法人の交代後も、グループホームの設置目的を謳った開所以来の理念の唱和が継続し、管理者は事有る度に、理念を3回唱和するよう指導している。職員は、「思いやりを持って笑って声かけをする」支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会や区長さんとのつながりを築き、相互間の交流を試みた段階で人員不足が起こり停滞中	天候等の影響で夕涼み会やソーメン流しはホームだけの開催となったが、今年も隣の駐車場を神幸祭の神輿の休憩に提供し、大いに賑わっている。管理者が老人会主催のイベントに参加し、地域交流の足掛かりにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口のポスターを作成し病院などに掲示		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設のレク予定や実施報告を行い区長へ協力要請などをし、地域からは行事の参加確認をされている	入居者や家族、地域代表などの参加で定期的開催され、議事録を玄関に公表している。会議では活動や運営状況を詳細に報告している。職員の補充が課題となっていることに、家族から「(職員として)来ましようか」との申し出もあった。	毎月発行されている家族通信に運営推進会議コーナーを設けられ、会議内容や次回開催日などの掲載で運営推進会議の周知や更なる活用を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターとの連絡を密にし、上記センター主催の認知症カフェなどへの協力を行っている	地域包括支援センター主催のカフェに入居者と参加し、管理者がギター演奏や獅子舞を披露している。以前町担当者の紹介で入居された方もあり、日頃から情報交換や連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議と連動して月に2回身体拘束防止委員会を実施。 月1回職員ミーティングで行った内容の評価と変動、行動での拘束はないかなど、多角的観点で話し合いを行っている	食事前の長いエプロン、センサー代わりに上履きにつけた鈴も拘束のひとつとみなして、家族から同意書を頂き、身体拘束防止委員会で経過や評価を報告し意見を求めている。また、実施した言葉による虐待に関する内部研修も報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記、身体拘束廃止の話し合い時、日常ケアの中で言動・行動に虐待となるような場面がなかったか振り返りや評価を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の勉強会を行い、パンフレットを玄関掲示棚に案内している	現在までは制度や事業の活用はないが、キーパーソンの心身の状況に配慮し、制度の案内を予定している入居者もある。パンフレットを整備し、理解を深める機会として研修を検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項や同意が必要な事項は必ず文書化して説明し、同意を得る必要がある場合は署名捺印をいただいている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催を呼びかけ、一家族は参加の意欲をみせていただいているが、意見をいただく機会は作れていない。	毎月発行している家族通信で日頃の暮らしぶりを報告し、意見の表出を促している。来訪された家族から、職員の顔ぶれが違うなどの意見を伺うこともある。今回の介護保険制度の改正に伴う利用料の変更については、書面で説明し了解を得ている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第1火曜日を職員ミーティングと決め原則全員出席として話し合いを行い、業務改善や提案を協議する場になっている	毎月の職員ミーティングで、職員の離職や補充について説明し、夜勤や早出、遅出の勤務時間の延長や見直しを話し合っている。運営法人から異動した職員もあり、管理者が運営法人とのパイプ役として尽力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の面接を行い評価していくシステムを作っている段階で中断している。処遇改善に関しては法人の規定で決定されている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集を続けているが応募が全く無い状態で慢性的なスタッフ不足が続いている	今回運営法人から異動した職員もあり、前の職場と全く異なり、良い経験を積んでいるとの前向きな感想もあった。外部研修参加の推奨には至らないが、年間研修計画に沿って職員の知識とスキルアップに努めている。管理者や職員で、ソーメン流し道具の製作やホーム内の修繕、家族通信の作成や廊下の掲示などを担当し、入居者の笑顔がある安全な環境づくりに励んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間の勉強会テーマを決めて人権教育など外務研修資料から伝達研修を実施している	昨年度末に参加した虐待に関する研修会の資料を基に、言葉遣いに留意した内部研修を実施している。運営法人から異動した職員も、入居者を人生の先輩として敬う姿勢で支援に取り組みたいと、話している。	保険者主催の人権研修に参加し、さらなる人権教育や啓発活動への取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は人員不足から停滞しているが施設内勉強会でケア実践に必要な移乗訓練などを実施した		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	人員不足から外部研修への参加や活動が困難な状況		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望があれば基本情報紙を基に面接し、ご家族と本人からお話や希望を確認し信頼関係作りに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記面接の中で行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報紙を基に、基本的ニーズを分析して支援の開始を決定している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所時に利用者さんや職員全員に紹介し、新しい仲間をアピールして人間関係づくりをしています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんのご家族には一緒に支え合ってもらい協力要請や面会、外泊をお願いしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	個々の背景を大事にして本人理解を深める働きかけはしているが個々の馴染みの関係を支援するまでには至っていない	馴染みの幸神祭の神輿の巡行や門松の飾りつけが継続し、家族や孫、近隣在住の友人が来訪している。また、家族と外出したり受診後に外食するなど、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや誕生会を通して一人ひとりの人間性を大事にしているが、支え合う関係の構築までには至っていない。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係づくりは大切だと感じているがそのケースには出会っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの生活リズムや習慣を大事にしている ・業務の都合に合わせる場合は話し合ってから決定していく	フェースシートやアセスメントシートを整備し、意向の把握に努めている。頻回な尿意を訴えたり、トイレトペーパーをポケットに入れる言動の背後にある感情について、話し合っている。	介護計画の見直し時のアセスメント結果を以前のアセスメント表に追記するなどの工夫で、さらなる意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報収集から、個々の背景を把握して関わられるよう個人理解に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLや立位保持力など、個々の残された生活力の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員ミーティングで個々の問題点や介入方法を提起していただき、援助の統一を図り、カンファで評価している	ケアカンファレンスが開催できない現状であるが、職員の気付きをミーティングで話し合っている。陰部洗浄で尿路感染症を予防したり、嚥下が困難になりつつある入居者の現状に沿ったケアを実践している。	運営法人のデイケアを利用している入居者が多いので、医療と介護の連携で入居者の現状に沿ったケアを提供するため、定期的な話し合いや情報交換を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・わかり易い文章記述を周知徹底 ・些細なことでも必ず記録に残すことをミーティングで共有する場面が多くなった		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	糖尿病の利用者さんには主治医の指示、栄養士との体制づくりを行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフ数などマンパワーの問題から地域資源との協働には至っていない		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症は見立病院、内科は中富医院、歯科はみかも歯科と連携し、ご家族と本人に納得してもらってから支援している	運営法人だけでなく、入居者や家族の意向に沿った医療機関受診を支援している。適切な医療受診を支援するため、看護師でもある管理者が受診に同行したり、往診前にFAXで個々の状態を報告している。また、早期受診で早期診断が受けられるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「ホウレンソウ」を周知し、組織の動きを徹底している 少しの気づきでも朝の申し送りで報告し早期発見、早期受診につなげている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な会議や往診前のFAXで情報交換している。 入院の際はご家族と一緒に病状説明を受け退院後の受け入れ等を明確にしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのガイドラインを作成し、終末期のあり方について入所時に一度確認する。 終末期を迎える際に終末期委員会を立ち上げて頻回なカンファレンスをしていく方向	これまで看取りはないが、手引きで歩行はするが口を開けるのが精一杯で食事や排泄に介助が必要な入居者もある。整備したガイドラインに沿って、人生の最終段階の医療やケアについて、本人だけでなく家族の意向を随時確認しながら支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間教育とは別に消防訓練の一環として救急蘇生法の学習をしていく予定		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でハザードマップや町の体制を確認した。 現在災害対策マップを作成中	訓練計画を整備し、年2回避難訓練を予定している。4月は消防署立会で訓練を実施しているが、特段の指導はなかった。備蓄一覧表を貼付した移動用バックを整備し、入居者の持ち出し書面を確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待防止や人権擁護の勉強会を実施 日頃の対応方法もカンファレンスで意見交換を行っている	調査員にどこから来たかと何度も尋ねたり、家族で自営業を営んでいることを何度も話す入居者の様子から、日頃から入居者の人格や誇りに配慮したケアの実践が伺えた。中には、入居前の暴言などの行動・心理症状がなくなった方もある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんのアクションの意味を仮説として伝え、対応の中で検証をしている 結果的に利用者さんの希望に沿っていると考える		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活上、ひとりひとりの希望をすべて叶えることはできないが趣味や特技を活かしてもらえよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんの好みの衣類や装飾を取り入れている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	超高齢化の中で一緒に食事は作れないが、お膳を並べたり片付けを一緒にやっている	職員の介助や見守りで、其々のペースで完食する入居者がほとんどである。昼や夜は法人からの配食のため、日頃は誕生日のケーキやおやつを楽しみ、今年もソーメン流しや夕涼み会でのピザは好評であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さん一人ひとりの水分チェックを行っており、お茶を飲まれない方にはポカリスエットやヤクルトなどを取り入れて補給を図っている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	みかも歯科と連携し、口腔ケアのあり方を指導していただいている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況にあった支援を行っている。時間ごとのトイレ誘導の声掛けで日中は全員紙パンツにパッドを基本としている	尿意を訴える入居者もあるが、日中は1時間毎にトイレに誘導したり、排泄後は丁寧な洗浄や清拭が実践されている。入居前に頻回な尿意を訴えていた方は、適切なトイレ介助で落ち着いた生活を送っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方にはトイレ誘導時に腹部マッサージを行って町の蠕動を促している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	集団生活の中で希望に沿ったタイミングでの入浴援助には限界があるので一応スケジュールで動いているが希望があれば調整している	1名の職員が声かけや入浴まで関わり、週2回ゆっくりとした入浴を支援している。脱衣場で衣服を脱げば、入浴モードになり浴槽から出たがらない入居者もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し昼寝や休息も取り入れ、その方の生活習慣にあった安眠や休憩を取り入れている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	高血圧や糖尿など職員が全員理解できるよう基本情報の中からカンファで周知している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵や塗り絵、カラオケや合唱など多様な活動も取り入れている。またドライブやレクなどアクティブなものも実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さん個々の外出支援は不足しているが、レク活動で集団外出の実施や個別に外泊・外出をご家庭に依頼している。また地域の認知症カフェなどにもでかけている	麦わら帽子を買い揃え、田や畑の作物の成長を話題に、朝の散歩が日課となっている。今年の花見は全員で行けなかったが、車で個別に花見に出かけている。運営法人のデイケア参加が、良い刺激になっている入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前から盗難防止の目的で現金のお預かりや所持は行ってもらっていない		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には自由だが、公衆電話を設置しておらず、希望があればその都度対応し、ご家族に電話を入れている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は家庭に近い環境を作り清潔保持に努めている。レクの写真や貼り絵などを掲示し楽しめる雰囲気を作っている	入口から玄関までのスロープや椅子が玄関に設置され、移動や靴の着脱が容易である。清掃が行き届いた廊下に消火器が設置されている。共用空間は、広い窓から道路の先の大豆畑の緑や黄色のコントラストを眺めながら、アクティビティや食事を楽しんだり、個々に寛ぐ場となっている。トイレ前の廊下の中ほどに設けられた3台の洗面台にはお湯の入ったポットが置かれ、うがいや洗浄に重宝されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室はすべて本人の趣味や好みを重視し、ご家族と本人で配置や飾り付けを行ってもらっている。共有の場所も本人の好きなソファや座る場所を決めている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具の持ち込み、配置、および飾り物はご家族と本人で決めてもらっている	居室入口の表札は花飾りがつけられている。全居室とも電動ベットが設置され、体動時に身体を保護するために、管理者がベット柵に緩衝材を巻き付けた居室もある。全居室とも換気や清掃が行き届き、タンスを持ち込み家族写真を飾っている居室が多く、居心地良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLや歩行状態から判断した援助を行っている		